

2006年ダカールラリー レビュー
三菱自動車 WRCワークス活動の休止について
奴田原文雄選手、伝統のモンテカルロでPWRC初優勝
www.ralliart.com



6連覇達成!

三菱自動車、11度目のパリダカ制覇成る。



DAKAR

[2006年ダカールラリー] euromilhoes Dakar 2006

王者再臨。

リュック・アルファン、パリダカ初優勝をマーク！
史上最高の激戦を制し三菱自動車が通算11勝目に到達



勝負は砂漠で———— 圧倒的な走破性能と経験を見せつけ、パジェロの牙城は揺るがず

まさに、三菱自動車の真価が発揮された一戦だった。ダカールラリー(通称パリダカ)に挑み続けて24年。この間に磨き上げてきた技術と経験を、三菱自動車は存分に見せつけた。

実に通算11度目の総合優勝。しかも6年連続という快挙。だが、決して楽な戦いであつたわけではない。むしろ史上最高と評されるまでの激戦だったのだ。

最大のライバルは、2003年からパリダカにワークス参戦を始めたフォルクスワーゲン(VW)だった。彼らは4年目の挑戦に向けて新型マシンを開発。(直径)39mmという実質的影響がほとんどない吸気リストラクターで許されるディーゼルエンジンを、さらにターボで武装して搭載。WRCで2度の王者になったカルロス・

サインツを筆頭に5台ものマシンを投入し、圧倒的な物量とともに立ち上がったのである。

だが、三菱自動車の構えは万全だった。前年大会から不変の4人のドライバーラインナップに加え、デビュー4年目を迎えた常勝マシン「パジェロ エボリューション」は、全面的に改良を加えたMPR12モデルに進化。同車はガソリンエンジンゆえに32mmのリストラクター装着を強いられ、おまけにターボ過給も許されない。絶対的なパワーとトルクでは明らかなハンディを負うが、三菱自動車の開発チームはそれに打ち勝つマシンを作り上げてきた。

そして迎えた本番。ポルトガルの山岳ステージでは予想どおりVWのサインツが飛ばした。2日連続のベストタイム。しかし、三菱自動車は焦らない。通過できるトレールの幅が狭いモロッコのステージに入っても無理はしない。「勝負は砂漠で」。それがパリダカを知り尽くした三菱自動車の戦い方だった。

果たして、ラリー中盤の天王山となるモーリタニア砂漠で、三菱自動車は満を持して勝負に出た。ライバルが蟻地獄のような砂丘で遅れを取る中、パジェロ エボリューションは2500回転から7000回転までフ

ラットにトルクを発生させる絶妙なチューニングのエンジンを武器に、スルスルと前へ進んでいく。途中、休息日はをさんだモーリタニアでの5日間を終えてみれば、三菱自動車はステファン・ベテランセルとリュック・アルファンが鉄壁の1-2体制を確立していた。

残念だったのは、日本期待の増岡浩が4日目にしてリタイアに追い込まれたことだ。2度の総合優勝を誇る第一人者にも不運が襲った。それが世界最高峰の勝負なのだ。そしてパリダカの魔の手はベテランセルにも伸びた。亜熱帯のギニアの森林ステージで木に車両側面をヒット。このアクシデントで4位に後退、彼の3年連続優勝の夢は断たれることとなった。

思わぬ両エースのアクシデント。だが、三菱自動車の層の厚さは主導権を離さなかった。ベテランセルに代わりアルファンがトップへ。そして、かつてのアルペンスキー王者は、ついにパリダカの王者としてダカールにたどり着く。3位には成長著しいホアン・ナニ・ロマが入り、ベテランセルも4位でゴールした。

史上最高の接戦も、終わってみれば1-3-4フィニッシュ。「砂漠の王者」三菱自動車の強さが改めて証明された、そんな24年目のダカールだった。



最後の3日間は追いつけるVWのジニール・ドゥプリエと30分差以内という稀に見る接近戦を展開するが、動じず、向上し続ける技量とスピードで、アルファンは前年の総合2位からついに頂点へ



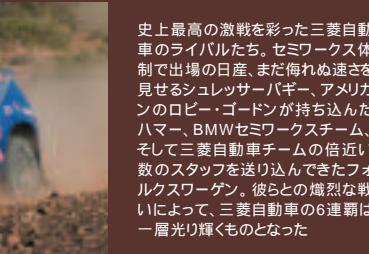
2004年大会の2輪部門王者であるロマにとって4輪でのパリダカ出場は2度目。まだ相さも残り、砂丘では勢いがよすぎたところもあったが、4輪自己最高位の3位を手にした



モーリタニアで狙いどおりトップに立ったベテランセルだが、第12レグで木に激突。この日はサービスを受けられないマラソンステージだったが、それでも4位でダカールにたどり着いてみせた



彼自身、「過去最高」という仕上がりで今大会に臨んでいた増岡は、その言葉どおり、アフリカに入ると軽くセカンドベストを叩き出した。それだけにラリー4日目のリタイアは無念だった



史上最高の激戦を彩った三菱自動車のライバルたち。セミワークス体制で出場の日産、まだ侮れぬ速さを見せるシュレッサー・バギー、アメリカ人のロビー・ゴードンが持ち込んだハマー、BMWセミワークスチーム、そして三菱自動車チームの倍近い数のスタッフを送り込んできたフォルクスワーゲン。彼らとの熾烈な戦いによって、三菱自動車の6年連続は一層光り輝くものとなった

2006年ダカールラリー 最終結果

4輪部門

スタート:2005年12月31日 リスボン(ポルトガル)
ゴール:2006年1月15日 ダカール(セネガル)
SS数:14 SS合計距離:4,782km 総走行距離:9,043km

1	L.アルファン	FRA	三菱パジェロ エボリューション	53時間47分32秒
2	G.ドゥプリエ	SA	VW レーストゥアレグ2	+ 17分53秒
3	J-N.ロマ	ESP	三菱パジェロ エボリューション	+ 1時間09分38秒
4	S.ベテランセル	FRA	三菱パジェロ エボリューション	+ 3時間20分24秒
5	M.ミラー	USA	VW レーストゥアレグ2	+ 3時間23分25秒
6	J-L.シュレッサー	FRA	シュレッサー・フォード	+ 4時間09分23秒
7	C.スーザ	POR	日産ピックアップ	+ 5時間40分11秒
8	B.サビー	FRA	VW レーストゥアレグ2	+ 8時間14分45秒
9	G.シシエリ	FRA	BMW X3	+ 8時間25分13秒
10	T.マニャルディ	FRA	シュレッサー・フォード	+ 8時間25分57秒
11	C.サインツ	ESP	VW レーストゥアレグ2	+ 10時間03分46秒
12	P.ガッシュ	FRA	SMG バギー	+ 13時間40分00秒
13	J-F.キノ	FRA	VW バギー	+ 15時間29分22秒
14	J-M.セルビア	ESP	シュレッサー・フォード	+ 16時間16分00秒
15	A.コックス	SA	BMW X5	+ 18時間55分06秒
22	池町佳生	JPN	トヨタ・ランドクルーザー	+ 24時間01分34秒
26	浅賀敬則	JPN	トヨタ・ランドクルーザー	+ 26時間57分37秒
	増岡 浩	JPN	三菱パジェロ エボリューション	第4レグ リタイア
	J.クランツシュミット	GER	VW レーストゥアレグ2	第11レグ リタイア
	篠塚建次郎	JPN	日産バスファイnder	第10レグ リタイア
	三橋 淳	JPN	日産ピックアップ	第9レグ リタイア

表内の国籍略号:FRA = フランス, SA = 南アフリカ, ESP = スペイン, USA = アメリカ, POR = ポルトガル, JPN = 日本

砂漠への招待状。

vol.4

始める前に終わった.....そんな19回目のパリダカでした

悔しい! 本当に残念なパリダカになってしまいました。もう19年もこのラリーに挑戦してきましたが、こんなに呆気なく終わってしまったのは初めてです。

運命の4日目は386kmのステージでした。80kmくらい行ったところで先行スタートのジャン・ルイ・シュレッサーを抜いたのですが、その後バンクしてしまい、シュレッサーがまた先に行き、僕の後からスタートしたステファン(ベテランセル)にも抜かれてしまいました。それでも僕は再びシュレッサーを抜き返す、そして問題の113km地点に差し掛かったのです。

そのとき、僕は砂漠に走る舗装路を時速140kmほどで横切ろうとしました。すると舗装路を渡った先には、幅2m、深さ

1mほどの水路があり、マシンはその土手っぶちでフロントを跳ね上げられ、そのまま2度前転し、リヤから落ちて止まりました。僕らにケガはありませんでしたが、茫然自失でした。

僕のコ・ドライバーのパスカル(メモン)は、ロードブックに記されていた『!!!(スリーコーション)』の箇所を読み遅れてしまったんです。ですが、僕にも間違いなく落ち度はありました。ラリーはドライバーとコ・ドライバーの共同作業で戦う競技です。これは僕らのミスでした。

バンクによる遅れを取り戻そうとして、結果的に用心を怠ったということもあってでしょう。それに、あのとき、僕らのマシンに搭載されたGPS機材に異常が出ていて、僕もパスカルもそれに気が取られていた。マシンそのものはその後の走行にほとんど支障なく、SS15位のタイムでサービスにたどり着いたのですが、ロールケージが修復不能なダメージを負っていることがわかり、諦めざるを得ませんでした。



実のところ今回は、いままでで一番マシンとの一体感を感じながら走っていたパリダカでした。大してブッシュしていなくてもタイムが出た。事前にいろんなセッティングをテストで試して、パジェロエボリューションを誰が乗っても速いマシンに上げてきました。そして、僕がラリーからいなくなった後もチームメイトが頑張ってくれて、三菱自動車の6連覇



この写真は、本番を前にした事前テストでのもの。三菱自動車チームのドミニク・セリエス監督や鳥居熱チーム代表と語らう増岡の表情には余裕さうかがえたのだが

を達成できた。うれしかったですし、パジェロ エボリューションの勝利を誇りに思いました。

パリダカでの勝負はまた1年お預けです。しかし、戦いはもう始まっています。三菱自動車では来年のパリダカに、ニューマシンを投入します。それを最強のマシンに仕上げて、今度は僕の手で三菱自動車の7連覇を決めてみせます。頑張りますので、引き続きご声援をよろしく願います。

Profile:1960年3月13日、埼玉生まれ。1987年から三菱自動車チームよりダカールラリーに参戦。2002年、2003年と2年連続で総合優勝を飾っている世界を代表するプロフェッショナル・クロスカンントリーラリードライバー

増岡選手がやって来る! 「パリダカトークライブ2006」開催

2月25日(土)	川崎三菱自動車販売(株)新百合ヶ丘店	10:30~
	神奈川三菱自動車販売(株)戸塚店	16:00~
2月26日(日)	栃木三菱自動車販売(株)宇都宮茶室店	14:00~
3月4日(土)	九州三菱自動車販売(株)坂取総合センター	14:00~
3月10日(金)	岩手三菱自動車販売(株)もりおか仙北店	17:00~
3月11日(土)	秋田三菱自動車販売(株)秋田店	14:00~
3月12日(日)	青森三菱自動車販売(株)青森東店	14:00~

入場無料 スケジュール・会場は都合により変更の可能性があります。最新情報は三菱自動車2006年ダカールラリーサイト <http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/j06dakari/index.html>でご確認ください。

ダカールラリー、それはまさに砂漠の総力戦



GPSポイントが大幅に制限された今年はコ・ドライバーの役割が一段と重要に。翌日のルート確認は毎晩夜中まで行われた



油圧式スタビライザーが禁止になったが、精力的な開発によってMPR12は実に柔軟な足を備え、圧倒的な走破性を見せつけた



時には深い砂にスタックすることも、しかし、こんなときも長年の経験に裏打ちされたノウハウがいち早い脱出を可能にしていた



大勢の群衆が集まることもある。往年のサファリラリーを思い起こさせる光景。目の前を抜けていくパジェロに声援が集まる



三菱自動車技術開発本部の中山信チームリーダーと幸田逸男エンジニアが全日程帯同、パジェロの活躍を支えた



20年近くパリダカに関わってきたスポーティングディレクターのジャン・マルク・ボネー。人材の豊かさも三菱自動車の強さの秘密だ



三菱自動車はサポートトラック8台とスタッフ用のパジェロ6台を配備。競技車と同様に登録されており、その速さも競技車なみ!



ヒカソの故郷、スペインのマラガからフェリーでモロッコへ渡る。これもまた、大陸をまたぐパリダカならではの風情だ



2年連続出場ของทีม三菱ラリーアート・チャイナのメン・ガン・ユアンは砂丘に足を取られリタイア



チーム三菱ラリーアート・タイランドのマン・ボーン・シリヤンもモーリタニア砂漠で戦列を去った



このマシンはパジェロの6G75エンジンと4WDシステムを搭載したもので総合39位でダカールにゴール



ディーゼルエンジンのランドクルーザーで出場した池町佳生と浅賀敏則。総合22位、26位に食い込んだ



今大会がラストランとなった元三菱自動車の藤塚達次郎だが無念のリタイア。長い間お疲れさまでした

三菱自動車 FIA世界ラリー選手権(WRC)のワークス活動休止について

三菱自動車から、ファンのみならずへ

三菱自動車は、今後のFIA世界ラリー選手権(WRC)のワークス活動についての方針を決定し、2006年から参戦を休止することいたしました。三菱自動車は、「三菱自動車再生計画」のもと、事業再生の達成に向け堅実なスタートを切ることができましたが、再生基盤の強化のためには、経営資源の選択と集中をさらに推進する必要があると判断したものであります。WRCへの復帰時期は、2005年度~2007年度の同計画が終了する2008年以降を目標としています。なお、ダカールラリー(通称:パリダカ)へは、引き続きワークス活動を継続して参戦していく予定です。

三菱自動車はこれからもモータースポーツに全力で取り組み続けます

MMSP GmbH社長 / チーム三菱自動車モータースポーツ代表 鳥居 勲

このたびの三菱自動車のWRCワークス活動休止の発表に、ファンの皆様は大変驚かれたことと思います。

その驚きは我々チーム三菱自動車モータースポーツのチームスタッフやドライバーにとっても同様でした。活動休止の理由は、三菱自動車の発表(上記)にあるとおりです。WRCとダカールラリーという2つの世界トップカテゴリーのモータースポーツを戦うには、パワーもコストもかかります。それでも昨年までの我々は、この2つにまさに全力で取り組み続けてきたのですが、このたびWRCは少しお休みをいただくこととなりました。

ただし、三菱自動車にとつてのモータースポーツが、市販車の安全性・耐久性・走行性・走破性を鍛え上げる重要な活動であることに変わりはありません。長年にわたるモータースポーツへの取り組みによって得られた経験を生かし、日本の三菱自動車技術開発センターと我々MMSPでは、ラリーカーの先行技術開発を引き続き行って参ります。

また、ダカールラリーにはこれからも挑み続けます。実際、24年目の参戦となりました今年のダカールラリーにおきましても、我々のチームやドライバー、そしてパジェロエボリューションは、経験と実績に裏打ちされ

たその強さを証明することができました。しかし、これで我々は満足してしまっただけではありません。さらなる高みを目指して、来年のダカールラリーに向けた開発をすでにスタートしております。

これからも三菱自動車が全力でモータースポーツに取り組む姿勢をファンの皆様にご覧いただけるよう、我々は最大限の努力を続けて参ります。また、世界中でランサーエボリューションやパジェロでモータースポーツに参加している多くの三菱車エントラントに、これからもより一層のご声援をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



お客様のモータースポーツ活動を応援し続けるラリーアートの役割は変わりません

株式会社ラリーアート 代表取締役社長 田口 雅生

ファンの皆様にとりまして、また私たちラリーアートにとりまして、今回のWRCワークス活動休止の決定は大変残念なニュースとなりました。

しかしながらこの決定は、三菱自動車のモータースポーツに対する精神や意義を否定するものではありません。ラリーアートと三菱自動車はこれからも、お客様のモータースポーツ活動をバックアップし続けて参ります。

プロダクションカー世界ラリー選手権(PWRC)を頂点に、アジア・パシフィックラリー選手権(APRC)をはじめとする地域選手権、そして各国内の選手権といった世界中のラリーフィールドにおいて、ランサーエ

ボリューションは活躍を続けています。また、国内に目を向ければ、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ、そしてサーキットレースにおいて、実に数多くの三菱車エントラントの方々が競技を盛り上げておられます。

これだけ多くのお客様が三菱車を選んでモータースポーツに参加されているという事実は、私たちのクルマ作りへの評価と受け止め、大変誇りに思っております。

ラリーアートと三菱自動車はこれからも、世界中のモータースポーツエントラントの方々に愛される、優れた安全性・耐久性・走行性・走破性を持ったベース車両作りと、競技専用パーツおよびスポーツパーツ

のレスポンスの良い開発・供給を目指していくことに変わりありません。

WRCワークス活動が休止となつたいま、ラリーアートはこれまでも増して三菱自動車と一体となつてお客様のモータースポーツ活動をバックアップし、そこから得られる貴重なノウハウを今後のクルマ作りに注ぎ込んで参ります。ファンの皆様も、世界中の三菱車エントラントに変わらぬ熱きご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

同時にラリーアートは、三菱自動車の事業再生のために最大限の協力をを行い、1日も早いWRCワークス活動再開に向けて努力して参ります。



快挙!

奴田原文雄選手、 伝統の一戦でPWRC初優勝



2006年WRC / PWRC
開幕戦ラリー・モンテカルロ

奴田原文雄選手がやってくれた! 伝統のラリー・モンテカルロで待望のPWRC初優勝を決めてみせたのだ。

市販車に最小限の改造を施しただけのグループN車両で争われるラリーの最高峰PWRC。今年も8戦が開催され、うち6戦がポイント獲得対象となるが、モンテカルロが初めてその開幕戦となった。しかし、多くのPWRCドライバーはこのラリーの経験がなく、しかも不確定要素が格別に多いことから、出場を敬遠。実際にモノコに集まったPWRCチームは6チームだったが、その中に奴田原選手を擁するADVAN-PIAAラリーチームの姿もあった。

もちろん、奴田原選手もモンテカルロへの出場はこれが初めて。周囲にも反対する声の方が多かった。「それでも出たかった」と彼は言う。「モンテカルロはあこがれでしたから」

勝算もあった。今年もPWRCでは奴田原選手だけが使用する

横濱ゴムのADVANタイヤは、低温でライバルを凌駕するグリップ性能を持つことがわかっていて、だから無理を言ってもドライ用にスパイクを打ち込んだモンテカルロ専用タイヤを用意してもらい、冬のコート・ダジュールへ乗り込んでいったのだ。

1月19日、奴田原選手は有名なモンテカルロ・カジノの前に設けられたスタートランプをゆっくり下り、3シーズン目となるPWRC挑戦をスタートさせた。ADVAN-PIAAラリーチームは今回からランサーエボリューションIXを投入。これが同車のPWRCデビューでもあり、そのパフォーマンスにも注目が集まった。

翌20日から始まったラリー本番は、午前中の3本のステージでは交通渋滞によりPWRC勢はノータイム。仕切り直しとなった午後だが、奴田原選手は部分的に氷結しているコースを落ち着いて攻め、いきなりトップで第1レグを終えてみせる。第2レグ

の前半ではスバルのナセル・アルアティアが攻めてきたが、SS9でトンネルの入口に激突。一方の奴田原選手はここで3連続ベストタイムをマークし、第2レグもトップを保ち続けた。

期待が高まる最終日、第3レグ。前日のアクシデントで左前輪をもぎ取られながらもモノコのサービスに帰還し、奇跡的にベナルティなく奴田原選手に次ぐ2位でラリーを続けていたアルアティアが再度クラッシュ。一発逆転を狙ってスノースパイクタイヤを履いて出ていったところ、乾いた舗装路でグリップを得られず自滅してしまっただけだった。これで勝負があった。奴田原選手は初出場のモンテカルロとは思えない冷静な判断と速さを見せ、自らの力でPWRC初優勝を勝ち取ったのだ。

モノコ王宮前に設けられたフィニッシュランプに上った奴田原選手。その笑顔は空の青さにも似て、実に晴れやかだった。



奴田原文雄 2006年PWRC出場予定ラリー(全6戦)：ラリー・モンテカルロ(1月)、ラリー・メキシコ(3月)、ラリー・ジャパ(9月)、キプロスラリー(9月)、ラリー・オーストラリア(10月)、ラリー・ニュージーランド(11月)

▶ モンテカルロから帰国後の奴田原文雄選手に聞く

-- おめでとうございます。素晴らしいラリーになりましたね。「崖沿いの道を走る映像を見て、いつかは自分も出たいと思っていたモンテカルロでした。正直言って、いろいろ無理を言ってきましたから、とにかく無事で終わって、しかも勝って、本当に良かったです」
-- モンテカルロというラリーは期待どりのものですか? 「やっぱり特別なラリーなんだと実感しました。コンディションの難しさも、それにラリーが開催されている雰囲気も。最後は王宮前での表彰式でアルベール2世国王と握手をして。今回からイギリス人のダニエル・パリットがコ・ドライバーになったんですけど、彼は両親も連れてきていて、家族みんなで喜んでました。やっぱりヨーロッパの人にとっては、モンテで勝つというのは日本以上に大きいことのようなですね」
-- コ・ドライバーも含めて、今回は新しい要素が多かったですね。

「そうですね。まずモンテ自体が僕らにとって初めてですし、ドライ用タイヤで氷結路を走る。なんてことも初めて、それはそれはスリリングでした(笑)。ダニエルはいろんなところから情報を持ってきてくれて助かりました。それが彼を起用した狙いでもあるんですけど、ベースノートは、いままでの日本語から英語に変わったわけですけど、案外問題ありませんでした。それに、低温でのADVANタイヤの良さも狙いどおりのでした」
-- マシンも今回からランサーエボリューションIXになりましたが? 「MIVECになって明らかにいいですね。扱いやすいし、ツイステイな上り区間なんか断然速い。アルミルーフによる低重心も効いている。次はグラベルのラリー・メキシコに出ますが、すごく楽しみです。今年でPWRCも3年目になりますが、このまま頑張り続けて、ラリー・ジャパンでも勝って、そしてシリーズチャンピオンを目指したいと思っています」



三菱自動車のWRC活動休止決定を受けて、古巣のラリーアート・イタリーから走り慣れたランサー-WRC05で開幕2戦に出場したガリ。モンテカルロではタイヤを強いられただけで、スウェーデンでは地元のカールソンと互角以上の走りを展開。路面を選ばないそのスピードを改めて示してみせた

MMSPがカスタマーサポートを開始 ランサーWRC05でガリ&カールソンが出場

残念ながらWRCのワークス活動は休止となった三菱自動車だが、MMSPではランサーWRC05をプライベートに貸与するカスタマーサポートプログラムを実施し、開幕戦のモンテカルロには三菱自動車チームのドライバーであったジジ・ガリ選手が、そして第2戦スウェーデンにはガリ選手とダニエル・カールソン選手がこのプログラムを利用して出場した。

特にスウェーデンでは2台のランサーWRC05が秒差の3位争いを終始展開。最終的にカールソン選手が3位、ガリ選手が4位でフィニッシュした。この間、ランサーWRC05もノートラブルで彼らのバトルを後押し、改めてそのポテンシャルと信頼性の高さを実証することとなった。MMSPでは今後もこのプログラムを継続し、多くの才能ある選手にWRCで活躍するチャンスを提供していく予定である。



「ランサーWRC05はとてもドライブしやすく、僕のスタイルにも合っている。すごくいいフィーリングだ」とカールソン。その言葉どおり、初めてのマシンで自己ベストの3位表彰台を獲得した

ランサーエボリューションユーザー増加 2006年PWRCは白熱の戦い必至!

今年、PWRCにシリーズ登録を行ったのは14チーム(ただし4月のラリー・アルゼンチンまで追加登録が可能)。そのうちランサーエボリューションユーザーは8チームと、大きく増加することとなった。そして開幕戦のモンテカルロには4つのユーザーチームが出場。奴田原文雄選手が優勝を飾ったことに加え、デイビッド・ヒギンズ選手が2位、そして4位にステファノ・マリニニ選手と、上位をランサー勢が占める結果となった。



今年からチームエントリーが認められたPWRC。奴田原やヒギンズ(写真左)は全戦に参加するが、モンテカルロではブルガリア王者のヤセシ・ボボフ(写真中)が出場したOMV CEEラリーチームや、ステファノ・マリニニ(写真右)が出場したエラニ・チーム・グループは今後ドライバーが交替していく予定だ



田口勝彦 連載コラム
KATSUの

4回目!

いつだってエボリューション

こだわりのACD制御コンピュータを開発中!

もうWRCは開幕していますが、僕のシーズン開幕はもう少し先。そんなわけで、このオフシーズンの僕はラリーアートのスタッフとしてのお仕事にいらしてました。

そのひとつが、ランサーエボリューションVII-IX用のアクティブセンターデフ(ACD)制御コンピュータの開発。GT/RSのターマック用とグラベル用、それにGSR用の3種類があるんですけど、何しろラリーアートの名で競技用として発売するパーツですからね。基本的にはそれなりにウデに覚えのあるドライバーが付けるもので

すから、僕も気合いが入ります。岡崎の三菱自動車技術開発センターのテストコースで3日間みっちりテストをやって、その制御を洗練させていってんですけど、とてもよい仕上がりになってきたと思います。

パーツの開発は、ランサーエボリューションの開発エンジニアのみならずとやっているんですけど、仕事は早いんですよ。「こういう動きを試したい」と言ったらババツとそのとおりに仕立ててもらえます。何しろ、三菱自動車の開発チームは世界中のモータースポーツで戦うランサーエボリューションのデータを持ってますからね。

今年の夏前にはラリーアートパーツとして発売できると思いますのでお楽しみに。性能的には、笑っちゃうくらい曲がるものになっていますので、あと、アウトランダーのスポーツサスペンションも開発しています。こういうパーツ開発ってノーマルの出来がいいのでなかなか大変なんですけど、開発ドライバーの一員として、とてもやり甲斐があるんです。

ところで、先日は話題の新型軽自動車『i(アイ)』の雪上体験試乗会のインストラクターとして6日間ほど苗場スキー場に行ってきました。アイの4WDを担当したんですけど、このクルマのハンドリングがすごい! ABSの

セッティングなんかラリー車で使えますね。ミッドシップになって、特にブレーキング時のバランスがよくなったことあると思います。オーバースピードでコーナーに突っ込んでフルブレーキングしても、ラリー車みたいにフロントがスッとする。試乗していただいた一般のみならずも、自分のクルマと比べものにならないくらいに曲がって止まるのには驚かれてました。

今年には三菱自動車のバリダカ6連覇、そして奴田原さんのモンテカルロPWRC優勝と続きましたが、僕もそろそろ開幕です。それから、僕の公式ウェブサイトが近日オープンすることになりました。そちらもチェックしてみてくださいね。

田口勝彦公式サイト(近日オープン)
<http://www.ralliart.co.jp/katsu/>

田口勝彦 2006年APRCフル参戦が決定!

「2004年からアジア・パシフィックラリー選手権(APRC)に再び参戦してきましたが、今年もフル参戦できることになりました。開幕戦は3月10-12日にオーストラリアで開催されるラリー・オブ・キャンベラです。応援をどうぞよろしく願います!」

Profile: 1972年2月7日、岡山県生まれ。22歳より海外に渡り、ランサーエボリューションで国際ラリーの経験を積んできた。1999年にはAPRC総合チャンピオン獲得。株式会社ラリーアート社員



開発中のACD制御コンピュータですが、とくにこだわって作り込んでいるのがブレーキングからターンにかけての動き。ここにいかにデフがドライバーの意思に合った動きをするかを突き詰めて作ってます

05年タイトルホルダー、1年を振り返る

全日本ラリー選手権4輪駆動部門Cクラス

奴田原文雄選手



「05年は本当に充実した年になりましたね。全日本ラリーはシリーズの中盤が大変でしたが、結果的に最後はうまく盛り返して連続してチャンピオンが取れましたからね。またPWRCの方でも、三菱車ではシリーズ最上位（4位）で05年シーズンを終えられましたからね。これで現状では、考えられる最上位のところまで行けたかなと思います。とにかく全日本ラリーでもPWRCでも、06年につなげられる最良の結果を残せたのが良かったと思っています」

全日本ダートトライアル選手権N3クラス

荒井信介選手



「05年シーズンは途中からチームを組んで、皆と一緒に参戦しました。これいろいろな雑事から解放されて走り



各チャンピオンと三菱自動車相川常務（右端）と、ラリーアート田口社長（左端）

に専念することができましたね。シーズンの途中からエボIXにスイッチしましたが、最初のイベントは成績が悪かった。それでも、その後は自分の気持ちもうまく整理できてセットアップができたと思います。今はだいぶ乗りやすくなって素直に動くようになりました。途中からエボIXを出したからには、途中で真先に勝ちたいという意識が強くなりました（笑）。その後、2勝を挙げて3回目のチャンピオンを取りましたが、歳の割にはちょっと少ないかなと思いますね（笑）」

全日本ジムカーナ選手権N4クラス

茅野成樹選手



「05年を一言で表現すると、「そんなに甘くなかった」ということですね。05年から、それまでのN4クラスがSAクラスと二分されて選手は少なくなりましたが、逆に常に熾烈な争いが展開されたことですね。こういう状況の中で、目標はもちろん2年連続シリーズ制覇に置いて戦いましたが、最終的にはこれが目標どおり実現できたわけです。でもね、とにかく最後は勝ってチャンピオンを決めたかった、というのが今の正直な気持ちですね」

全日本ジムカーナ選手権SA3クラス

天満 清選手



「05年から新たなSA3クラスに加わって、自分なりにいろいろとクルマのセッティングを煮詰めていて、それまで使っていたN4クラスのクルマをうまくアレンジできました。より自分に乗りやすいクルマになったという意味ですね。あとチャンピオンを獲れた一番の要因としては、大変でしたが、シーズン途中の鈴鹿でエボIXにスイッチしたことです。それで最終戦でエボIXの良さを思った以上に発揮できて、チャンピオンを決めることができました」

全日本ジムカーナ選手権SCクラス

谷森雅彦選手



「05年から新たにSAクラスができて、やっぱりナンバー付きには負けたくないという気持ちと、ランサーが出る3クラスの中にあたっては、やはりSCクラスがその上になってはならないというプレッシャーも大きかった。とにかくみっともない走りはできないですからね（笑）。05年シーズンはおかげさまで、4年連続のチャンピオンが獲れました。04年より05年のタイムが良くて、マシ机的にも比較的ラクに勝てたシーズンになったと思っています」

RESULT

主要モータースポーツ結果表

2006年1~2月

FIA世界ラリー選手権 (WRC)

順位	ドライバー/コドライバー	車両
1	M.グロンホルム/T.ラウチアイン	フォード・フォカスRS WRC06
2	S.ロフ/D.エレナ	シトロエン・クサラWRC
3	T.ガルデマスタ/R.ホンカネン	プジョー・307WRC
4	M.ストロール/ミナー	プジョー・307WRC
5	S.サザン/P.ビワット	スバル・インプレッサWRC2006
6	G.アキンゾラ/G.マズニール	スバル・インプレッサWRC2005

第2戦 2月3~5日 スウェディッシュラリー

順位	ドライバー/コドライバー	車両
1	M.グロンホルム/T.ラウチアイン	フォード・フォカスRS WRC06
2	S.ロフ/D.エレナ	シトロエン・クサラWRC
3	D.カルソン/E.ホルムストラント	三菱ランサー-WRC05
4	G.カリ/M.ナルキチーニ	三菱ランサー-WRC05
5	T.ラウドローム/J.スカルマン	スバル・インプレッサ
6	K.カタヤマ/K.T.アレナス	フォード・フォカスRS WRC04

FIAプロダクションカー世界ラリー選手権 (PWRC)

順位	ドライバー/コドライバー	車両
1	奴田原 文雄/D.バリスト	三菱ランサーエボリューション
2	D.ヒンクス/R.トラー	三菱ランサーエボリューション
3	N.アルマティヤ/C.バスターン	スバル・インプレッサ
4	S.マルニエ/C.サントロニ	三菱ランサーエボリューション
5	J.ラバ/AM.アンテラ	スバル・インプレッサ

2006年海外/国内モータースポーツイベントスケジュール

EVENT SCHEDULE

FIA世界ラリー選手権 (WRC)

WRC	PWRC	日程	イベント
1	1	1/20-22	ラリー・モンテカルロ(モナコ)
2		2/3-5	スウェディッシュラリー
3	2	3/3-5	ラリー・メキシコ
4		3/24-26	ラリー・スペイン
5		4/7-9	ラリー・フランス
6	3	4/28-30	ラリー・アルゼンチン
7		5/19-21	ラリー・イタリア
8	4	6/2-4	アックロポリスラリー(ギリシャ)
9		8/11-13	ラリー・ドイツ
10		8/18-20	ラリー・フィンランド
11	5	9/1-3	ラリー・ジャパン
12	6	9/23-24	キプロス・ラリー
13		10/13-15	ラリー・トルコ
14	7	10/27-29	ラリー・オーストラリア
15	8	11/17-19	ラリー・ニュージーランド
16		12/1-3	ラリー・グレートブリテン(イギリス)

FIAアジア・パシフィックラリー選手権 (APRC)

R	日程	開催地
1	3/10-12	ラリー・オブ・キャンベラ(オーストラリア)
2	4/14-16	ラリー・ニューカレドニア
3	5/26-28	ラリー・オブ・トロリア(ニュージーランド)
4	7/7-9	ラリー・北海道
5	6/18-20	マレーシアラリー
6	9/17-17	ラリー・インドネシア
7	11/25-27	チャイナラリー(中国)

FIAクロスカントリーラリーワールドカップ

R	日程	開催地
1	3/7-16	ポーラス・パシフィック(アルゼンチン)
2	4/7-17	チュニジアラリー
3	5/11-16	ラリー・トランスサイベリカ(ポルトガル)
4	5/30-6/5	モロココラリー
5	6/24-7/2	オリエンタル(トルコ)
6	7/29-8/5	南アフリカ
7	9/30-10/8	ファラオラリー(エジプト)
8	11/4-10	UAEデザートチャレンジ

JAF全日本ラリー選手権

R	日程	開催地
1	4/7-9	ツルド・九州2006 in KARATSU(佐賀)
2	4/28-30	2006年久万高原ラリー(愛媛)
3	中止	ひえつぎ'06(宮崎)
4	5/21	MSSCC東京ラリー2006(福島)
5	6/23-25	シンフォニーラリー2006 inひよし(京都)
6	7/7-9	ラリー北海道(北海道)
7	7/21-23	RALLY in TOKACHI 2006(北海道)
8	9/22-24	KIRORO Traverse Kamumindara 2006 Rally in Akaiawa(北海道)
9	10/20-22	第34回M.C.S.C.ラリー ハイランドマスターズ2006(長野・岐阜)

JAF全日本ジムカーナ選手権

R	日程	開催地
1	3/26	丸和オートランド那須(栃木)
2	4/15-16	三井オートスポーツランド(福岡)
3	5/13-14	スポーツランド信州(長野)
4	6/4	オートスポーツランドスナガバ(北海道)
5	7/16	丸和オートランド那須(栃木)
6	8/6	サーキットパーク切谷内(青森)
7	9/10	門前町モータースポーツ公園(石川)
8	10/7-8	テクニクステージタカタ(広島)
JAFCUP 11/11-12 三井オートスポーツランド(福岡)		

JAF全日本ジムカーナ選手権

R	日程	開催地
1	3/19	関越(群馬)
2	4/1-2	MINEサーキット(山口)※
3	4/22-23	名阪スポーツランド(奈良)
4	5/21	スポーツランドSUGO(宮城)
5	6/25	オートスポーツランドスナガバ(北海道)
6	7/15-16	イオックスアローザスポーツランド(富山)
7	9/2-3	鈴鹿サーキット(三重)
8	9/23-24	三井オートスポーツランド(福岡)
JAFCUP 11/4-5 備北ハイランドサーキット(岡山)		

※第2戦MINEに関してはMINEサーキット閉鎖のため調整中

スーパー耐久シリーズ

R	日程	開催地
1	4/22-23	仙台ハイランド(宮城)/406km
2	5/20-21	鈴鹿サーキット(三重)/300mile
3	7/15-17	十勝スピードウェイ(北海道)/24h
4	8/5-6	富士スピードウェイ(静岡)/4h
5	9/2-3	岡山国際サーキット(岡山)/400km
6	9/30-10/1	スポーツランドSUGO(宮城)/400km
7	11/11-12	ツインリンクもてぎ(栃木)/300mile

2005年JAF地方選手権で活躍したCMSC選手達

CMSCから5名のシリーズチャンピオンが誕生! 各シリーズ6位までにCMSC選手32名が入賞を果たす!

日本全国各地で熱戦が広がるラリー、ダートトライアル、ジムカーナ。各地区の2005年JAF地方選手権シリーズでCMSC選手が大活躍をみせました! 実に5名のCMSC選手がシリーズチャンピオンに輝きました。また各選手権シリーズ2~6位までに27名が入賞。総勢32名のCMSC選手が三菱車で見事に入賞を果たしました。以下、その32名の選手をご紹介します。2006年もCMSC選手を応援してください!

*CMSC(コルトモータースポーツクラブ)は、三菱車愛好者を中心としたJAF登録クラブで、東京の本部(会長:木本 剛)および全国24支部(各々独立JAF登録クラブ)から構成され、現在約700名の会員が活躍している。



平田 朋也選手 (CMSC長野) 関東ダートトライアル選手権N2クラス



松本 奈穂美選手 (CMSC帯広) 北海道ラリー選手権4輪駆動部門Bクラス・ナビゲーター



伊藤 祥充選手 (CMSC浜松) 中部ダートトライアル選手権S3クラス



林 宏明選手 (CMSC札幌) 北海道ダートトライアル選手権N3クラス



大谷 竜三 (CMSC広島) 中国ダートトライアル選手権Dクラス

'05 JAF地方選手権でシリーズ2~6位までに入賞したCMSC選手

'05ラリー地方選手権

地区	JAF選手権名	クラス	シリーズ順位	選手	車両	所属
A	北海道ラリー選手権	Bクラスドライバー	2位	狼谷 洋文	ミラージュ	CMSC帯広
			4位	千葉 陽子	ランサー	CMSC道北
			6位	鎌田 伸江	ランサー	CMSC道北
E	近畿ラリー選手権	Cクラスドライバー	6位	樋口 宏	ランサー	CMSC大阪
			6位	山本 和典	ランサー	CMSC大阪

'05ジムカーナ地方選手権

地区	JAF選手権名	クラス	シリーズ順位	選手	車両	所属
A	北海道ジムカーナ選手権	SA3クラス	4位	青沼 達也	ランサー	CMSC帯広
			6位	下山 功太	ランサー	CMSC青森
			6位	村上 大樹	ミラージュ	CMSC青森
D	中部ジムカーナ選手権	N4クラス	5位	中村 友也	ランサー	CMSC愛知
			3位	吉野 正則	ランサー	CMSC愛知
			6位	飯田 和夫	ランサー	CMSC愛知
F	中国ジムカーナ選手権	N4クラス	4位	濱田 真也	ランサー	CMSC島根

'05ダートトライアル地方選手権

地区	JAF選手権名	クラス	シリーズ順位	選手	車両	所属
A	北海道ダートトライアル選手権	N3クラス	4位	五十嵐 貴右	ランサー	CMSC道北
			2位	山田 善之	ランサー	CMSC札幌
			6位	光井 太平	ランサー	CMSC岩手
B	東北ダートトライアル選手権	N3クラス	3位	伊藤 大基	ランサー	CMSC岩手
			3位	堀口 剛義	ランサー	CMSC盛岡
C	関東ダートトライアル選手権	N4クラス	2位	堀口 剛義	ランサー	CMSC盛岡
			2位	棚田 正文	ランサー	CMSC岐阜
D	中部ダートトライアル選手権	S3クラス	3位	三枝 重光	ランサー	CMSC岐阜
			6位	蓮池 量之	ランサー	CMSC浜松
F	中国ダートトライアル選手権	N3クラス	2位	加藤 勝利	ランサー	CMSC広島
			4位	松原 宏	ミラージュ	CMSC香川
			3位	三好 工	ランサー	CMSC島根
G	四国ダートトライアル選手権	N1クラス	2位	佐藤 知紀	ランサー	CMSC盛岡
			2位	松原 宏	ミラージュ	CMSC香川
			3位	川田 昌人	ミラージュ	CMSC香川
			5位	森 健二	ミラージュ	CMSC香川

数多くのモータースポーツ競技会を主催するCMSC

全国各地に広がるコルトモータースポーツクラブ (CMSC) 24支部の活動は、所属する選手達が様々なモータースポーツ競技に三菱車で参加し活躍する一方で、JAF公認のモータースポーツ競技会を数多く各地で主催しています。歴史ある名イベントを主催するコルトモータースポーツクラブ (CMSC) は、各地区のモータースポーツの牽引役として重要な役割を担っています。2006年のCMSC主催JAF公認競技会の開催スケジュール (予定) は以下の通りとなっています。

2006年イベント主催スケジュール (JAF公認競技会)

開催日	イベント名称	開催場所	主催/問い合わせ先
2/11	2006年JMRC宮城・福島ダートトライアルシリーズ第1戦	2006年CMSC仙台耐寒トライアル	仙台ハイランド ジムカーナコース CMSC仙台 022-772-5521
3/5	2006年JAF四国ダートトライアル選手権第1戦	06CMSCアストロトライアル	香川スポーツランド CMSC香川 087-882-4335
4/28	2006宮城・福島ダートトライアルシリーズ第2戦	CMSC福島ダートトライアルチャレンジ	メーハイランド SSパーク CMSC福島 024-531-4451
5/14	2006年JMRC北東北ジムカーナシリーズ第2戦	06CMSC青森ジムカーナ	岩木山スキー場駐車場 CMSC青森 0172-82-2005
6/3~4	2006年JAF近畿ラリー選手権第2戦	2006JMRC近畿ラリーチャンピオンシリーズ第2戦	2006ホワイシCMSC大阪ナイトラリー 和歌山県内250km CMSC大阪 06-6928-6566
6/4	2006年JMRC東中国ジムカーナシリーズ第3戦	CMSC島根チャレンジカップ	備北サーキット CMSC島根 0852-26-1630
6/25	2006年JAF東北ダートトライアル選手権第3戦	2006JMRC東北オールスター選手権第3戦	岩手三菱ダイヤモンドラリー 仙台ハイランド オフロードコース CMSC岩手 019-622-0465
7/2	2006年JMRC北東北ジムカーナシリーズ第4戦	06CMSC青森ジムカーナ	岩木山スキー場駐車場 CMSC青森 0172-82-2005
7/8~9	2006年JMRC中国ラリーシリーズ第3戦	06CMSCダイヤスターラリー	香川県内200km CMSC香川 087-882-4335
7/9	2006年JMRC栃木ジムカーナシリーズ	CMSC栃木スリーダイヤモーターズジムカーナ	ツインリンクもてぎバルチコース CMSC栃木 028-600-5701
7/22~23	2006年JAF東日本ラリー選手権	06ツールド・東北	青森県内200km CMSC青森 0172-82-2005
8/20	2006年JAF中国ジムカーナ選手権第5戦	CMSC島根チャレンジカップ	備北サーキット CMSC島根 0852-26-1630
9/3	2006年JMRC北東北ジムカーナシリーズ最終戦	06CMSC青森ジムカーナ	岩木山スキー場駐車場 CMSC青森 0172-82-2005
10/22	2006年JMRC中国ダートトライアルシリーズ第3戦	2006CMSC広島ダートトライアル	テクニクステージタカタ CMSC広島 082-892-9560

あなたもCMSCの門をたたいてみませんか?

モータースポーツの楽しみ方は、ドライバーとして参加することはもちろん、メカニックやオフィシャル、家族ぐるみで遊ぶ楽しみ方もあります。ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ、レースの参加や主催と様々なモータースポーツ活動を行っているCMSCの門をたたいて、さらにモータースポーツを楽しみましょう!

CMSC支部連絡先は以下の通り。

道北 TEL:0166-82-7122(鎌田伸江)	福島 TEL:024-531-4451(谷津良嗣)	浜松 TEL:0532-25-4196(荒津啓司)
帯広 TEL:0155-21-7202(青沼達也)	栃木 TEL:028-600-5701(川口法行)	愛知 TEL:0587-21-8281(小玉憲司)
札幌 TEL:011-853-6522(宝田芳浩)	群馬 TEL:027-361-2222(荒井信介)	岐阜 TEL:0573-68-2030(浅野博幸)
青森 TEL:0172-82-2005(鶴ヶ谷慶市)	茨城 TEL:029-241-4500(中田由彦)	大版 TEL:06-6928-6566(岩下利勝)
秋田 TEL:018-839-6918(近藤隆行)	長野 TEL:0267-67-8322(上野陽志夫)	広島 TEL:082-892-9560(平原和幸)
岩手 TEL:019-622-0465(工藤良実)	埼玉 TEL:048-644-2522(山崎進)	島根 TEL:0852-26-1630(杉坂啓一)
山形 TEL:0237-55-5610(小川田出生)	千葉 TEL:043-233-6551(友野智)	香川 TEL:087-882-4335(白井修)
仙台 TEL:0222-772-5521(柿崎博史)	盛岡 TEL:0462-55-3773(松本慶秀)	鹿児島 TEL:099-262-2602(山口修)

「東京オートサロン2006 with NAPAC」 三菱自動車/ラリーアートブース 熱心なファンで賑わい、大盛況!

1月13～15日に千葉・幕張メッセで開催された「東京オートサロン2006 with NAPAC」に三菱自動車/ラリーアートが共同でブースを出展。ラリーアートのチューニングカー、およびラリーアートパーツをトータルチューニングアイテムで展示。また、ラリーアート商品特別販売コーナー、ドライビングサングラス体験コーナーを設置。ラリーアートメンバーズクラブの入会キャンペーンなども実施し、多くのファンで賑わいました。

カー＆ドレスアップカーのビッグイベント。今年で24回目の開催で、3日間で25万人近い入場者数を集めました。三菱自動車/ラリーアートで注目を浴びたのは、「ランサーエボリューションワゴンGT/GT-A tuned by RALLIART」の2台。また、初公開となる「コルト Version R」(参考出展車)、1月24日発売の新コンセプト軽自動車「i(アイ)」(参考出展車)や本格オフロードSUV「アウトランダー」のカスタマイズカーも人気でした。



注目された展示車両を紹介します!

LANCER EVOLUTION WAGON GT-A tuned by RALLIART



ベースはオートマチックであるGT-A。4G63ターボエンジンのポテンシャルを2ペダルで楽しめる、INVECS-IIスポーツモードの5ATを搭載。ツインプレートクラッチやL.S.D.などの駆動系を除き「GT tuned by RALLIART」とほぼ同様のチューニングを施し、インタークーラーアウトレットパイプの装着によりエンジンレスポンスの向上を図りました。カーボンケブラー製ローポジションタイプのバケットシート、スポーティなコンビネーションメーター、1DINトリブルメーターキット、カーボン製のフロントアンダースポイラーとリヤウィングなどを装着。上品なトータルチューニングを演出しています。

LANCER EVOLUTION WAGON GT tuned by RALLIART



ランサーエボリューションのポテンシャルを受け継いだ6MTの「ランサーエボリューションワゴン GT」をワークスならではのノウハウで高次元まで追求。ドイツ・ビルシュタインと共同開発した車高調整式サスペンションは、優れた路面追随性を誇り、抜群のトラクション性能とステアリングインフォメーションを確保しました。ENKEIと共同開発の18インチアルミホイール、実車風洞実験装置によるテストを実施したフロントアンダースポイラーとリヤウィング、カーボンケブラー製ローポジションバケットシートを装着しました。

COLT Version R(参考出展車)



コルトラリーアート(ターボエンジン搭載)をベースに、トランスミッションを5MTに変更、操安性をさらに向上させたローダウンダウンサスペンション、17インチアルミホイールRA04を装着、エアロパーツは、フロントからサイド、リヤまで流れるようなデザインフルエアロを施しました。特にリヤビューには、大型リヤウィングと迫力あるスポーツデュアルマフラーを追加。インテリアでは、ドイツ・RECAROと共同開発した新世代モータースポーツシェルのフルバケットシートを装着し、よりスポーティに、走る楽しさを提案します。

TRITON(参考出展車)



ピックアップトラック「ストラーダ」の後継モデルである「トライトン」。昨年8月よりタイで発売開始。タフさとスポーティさを兼ね備えたスタイリッシュなデザインの新世代ピックアップトラックです。2006年ダカールラリーでは、レーシングトライオンエボリューションでチーム三菱ラリーアート・タイランドが参戦。ダカールラリーなどから得たノウハウを生かした高い走破性能を備えています。今回ラリーアートは、エアスクープ付きのカーボン製ボンネット(参考出品)およびFRP製のスポーティ感あふれるカーゴバケットスポイラー(参考出品)を装着。このスポーツピックアップトラックとしての存在をアピールしました。

RALLIART PARTS ラリーアートピット RALLIART PIT

ラリーアートピット各店舗&テストアンドサービス店頭にて「バリダカ総合優勝記念セール」開催中

2006年ダカールラリー(通称バリダカ)における三菱パジェロエボリューションの総合優勝を記念して、2月28日(火)まで、全国のラリーアートピット各店、ラリーアート商品の国内総代理店であるテストアンドサービス店頭、計9か所にてラリーアート商品が20～40%OFFとなる感謝セール、「バリダカ総合優勝記念セール」を開催中です。

なおラリーアート商品5000円以上お買い上げの方には、プレゼントも用意しています(数に限りがありますので、品切れの際にはご容赦ください)。



開催地	ラリーアートピット	電話番号	ラリーアートピット	電話番号
関東	ラリーアートピット帯広	0155-30-5511	ラリーアートピット岡山	086-485-1866
	ラリーアートピット札幌平岸	011-822-1012	ラリーアートピット大分	097-524-3751
	ラリーアートピットHOKUSO	0297-23-4810	ラリーアートピット鹿児島	0996-72-0225
	ラリーアートピットさいたま	048-620-1221	テストアンドサービス店頭	044-854-1954
	ラリーアートピット京都	075-701-5505		



ラリーアート・メンバーズクラブ

RALLIART MEMBER'S CLUB (RMC)

RMCの会員の方からメールを頂きましたのでご紹介いたします。

このたびは東京オートサロンの入場チケットプレゼントありがとうございました。楽しみにしていた東京オートサロン。まずは三菱自動車ブースの大きさに満足、そしてその展示車両の数に感激、ベース車両が新たに増えたこと、華やかにつながった模様。例えばトライオンというピックアップトラックの今後の動向も気になりますし、i(アイ)が早速カスタマイズされていてかなりの人気があったことなど話題は数々。その中でも参考出展車のコルトバージョンRはかなり人気になる存在です。もちろんエボリューションワゴンGT-Aの完成されたカスタマイズには何時もながら脱帽しました。まさに今回の三菱自動車はエボリューションしていました。今後も楽しみにしています!

ラリーアートコーナー店 RALLIART CORNER

ラリーアート商品に関する最新情報は全国のラリーアートコーナー店にて入手できます。ぜひお近くのコーナー店へおいでください。

ラリーアートコーナー店 (39店舗、06年1月31日現在)

販売会社	店舗	電話番号	販売会社	店舗	電話番号	販売会社	店舗	電話番号
帯広三菱自動車販売(株)	帯広本店	0155-24-1115	栃木三菱自動車販売(株)	宇都宮今泉町店	029-623-0077	湘南三菱自動車販売(株)	横須賀店	0468-36-2800
青森三菱自動車販売(株)	青森西バイパス店	017-781-3315	栃木三菱自動車販売(株)	小山喜沢店	0285-25-2222	愛知中央三菱自動車販売(株)	岡崎矢作店	0564-31-3213
青森三菱自動車販売(株)	弘前店	0172-28-3401	栃木三菱自動車販売(株)	西那須野店	0287-36-1281	愛知中央三菱自動車販売(株)	岡崎上和田店	0564-53-3311
東奥三菱自動車販売(株)	八戸駅通店	0178-27-0111	南茨城三菱自動車販売(株)	土浦店	029-824-2855	愛知中央三菱自動車販売(株)	岡崎店	052-613-1551
秋田三菱自動車販売(株)	秋田店	018-862-5111	南茨城三菱自動車販売(株)	鹿島店	0299-92-6350	愛知中央三菱自動車販売(株)	グリーンロード店	0561-63-2611
気仙沼三菱自動車販売(株)	本郷店	0226-23-5595	埼玉三菱自動車販売(株)	熊谷店	048-523-2234	愛知中央三菱自動車販売(株)	豊橋殿田橋店	0532-64-2611
盛岡三菱自動車販売(株)	大船渡店	0192-27-4111	成田三菱自動車販売(株)	八街店	043-440-9841	岐阜三菱自動車販売(株)	恵那店	0573-25-3177
盛岡三菱自動車販売(株)	盛岡津志田店	019-631-1111	市川三菱自動車販売(株)	市川店	047-370-3311	富山中央三菱自動車販売(株)	高岡野村店	0766-22-2524
仙台三菱自動車販売(株)	泉インター店	022-373-5461	東京三菱自動車販売(株)	目黒店	03-3714-3211	近畿三菱自動車販売(株)	新大阪本店	06-6398-2120
群馬三菱自動車販売(株)	中央店	027-361-2233	東京三菱自動車販売(株)	世田谷店	03-3425-3311	大阪三菱自動車販売(株)	守口店	072-826-3581
群馬中央三菱自動車販売(株)	前橋店	027-253-1531	東京三菱自動車販売(株)	立川店	042-527-3311	島根三菱自動車販売(株)	松江店	0852-23-1511
群馬中央三菱自動車販売(株)	伊勢崎店	0270-23-9722	神奈川三菱自動車販売(株)	湘野辺店	042-758-2448	福山三菱自動車販売(株)	駅家店	084-972-7070
栃木三菱自動車販売(株)	宇都宮築瀬店	028-633-1281	川崎三菱自動車販売(株)	川崎店	044-541-0511	鹿児島中央三菱自動車販売(株)	鹿児島中央店	099-256-1200

Industrial Beauty

[機 械 美]



スポーツアルミホイール

クルマの荷重移動を感じながら、そしてタイヤのグリップを感じながら走るワインディングロード、ストリート、そしてハイウェイ。思い切り攻めるわけではないが、街中はスマートに、ハイウェイでは静かに、そして時にはスポーティなドライビングに集中したい。そんなニーズに合ったホイールやタイヤがないのか? 愛車のファインチューニングを考える上で外すことができないのがホイール。軽量のホイールはバネ下荷重を軽減しサスペンション本来の動きを演出してくれる。またホイール自体の強度・剛性が高ければ、コーナリングにも安心感が増す。さらに、ブレーキの冷却性能に優れたデザインであれば、安定したブレーキングが可能となる。

理想を言えば、金属素材の塊を圧縮して製造する1ピース構造の鍛造タイプホイール。しかし、それは高価で簡単には手が出ないもの。金属素材を型に流し込んで製造する1ピース構造の鋳造タイプホイールでも、構造的にリム部に強度が保たれているものがあれば、コストパフォーマンスに優れた理想的だ。さらにブレー

キ冷却性能がキープできてデザイン的にも美しいもの。そんな理想を求めてRALLIARTがEINKEIとコラボレート。「スポーツアルミホイール RA04」をリリースした。「RA04」は、1ピース構造の鋳造アルミホイールで、ガンメタリックの落ち着いたカラーリングと冷却性能に優れた12本スポーク、さらにENKEIの次世代軽量ホイール製法である「MATプロセス」を採用した。MATプロセスとは、2ピース/3ピースホイールのリム成形方法であるスピニング製法を応用したもので、1ピースホイールでは構造的に弱い部分であるリム部を独自に成形し、リム部の材料特性を大幅に改善、強度を飛躍的にアップさせた。

さらにMATプロセスを施すことにより、材料の内部組織が大幅に変化し、鍛造ホイール特有のアルミ組織である鍛流線(メタルフロー)を実現した。この鍛流線を作り出すことにより、ち密で均一な組織を生み出し、大幅な材料強度アップを実現した。

デザイン面では、応力分散とブレーキ冷却性能を考慮して12本スポークを採用し、ルックスと性能を高次

元で両立。またスポークをリム端面までオーバーラップさせることでスポークデザイン面の張りやワイド感を強調し、存在感を演出した。またホイールセンターへのラインは、迫力ある立体感を与えた。

この「RA04」と組み合わせるタイヤは、第3世代DNAタイヤ、YOKOHAMA「DNA S.drive」。新開発の「ナノパワーゴム」により、耐摩耗性とグリップ力を向上している。スポーティさと静粛性を適度にバランスさせた、快適でスマートなタイヤだ。



商品についての詳細は、ラリーアート公式webサイト(www.ralliart.com)の「RALLIART PARTS & COLLECTION」をご覧ください。

RALLIART NEW PARTS

アウトランダーをよりスポーティに アウトランダー用エアロパーツ開発中

ラリーアートでは昨年発売された本格オフロードSUVであるアウトランダー用エアロパーツを目下開発中です。開発中の商品は「スポーツフロントグリル」、「スポーツリヤウィング」(すべて仮称)、スポーティなデザインはもちろんのこと機能・性能の向上も図っています。発売予定は5月中旬を予定しています。リリースのアナウンスについては、ラリーアート公式webサイト等でご確認をお願いいたします。



エアロパーツのデザイン、仕様は若干変更される場合があります。

NEW CAR

新しい軽自動車「i(アイ)」発売

新コンセプトの未来系モデル「i(アイ)」は、エンジンを後輪車軸の前に配したリヤミッドシップレイアウトのユニークな新開発プラットフォームを採用した新型軽自動車。「未来的で上質なスタイリング」、「軽快なハンドリングと快適な乗り心地」、そして「全方位からの優れた衝突安全性」という3つの革新を実現した。



2006 SPRING/SUMMER RALLIART COLLECTION最新情報

今回のラリーアートコレクション春夏物は、スポーティなドライビングライトジャケット、バッグ、サングラスなど計38アイテムのラインナップ。他のアイテムは3月発売のカタログでCHECK!

WRCムードたっぷりの軽量ジャケット

ロゴはオール刺繍の高級感あふれるグラフィック。WRCのスポーティなムードたっぷりのライトジャケットです。襟に収納式フード付。

WRC
ライトジャケット

RAY1751WB
ブラック M・L・O (2L)
12,390円 (本体価格11,800円)



車内でもおれるドライビング用軽量ジャケット

軽快感あるポリエステルリップストップ素材を使用し、通気性を考え両袖切り替え部分にメッシュを採用。収納式フード付きで不意な天候の変化にも対応します。

ドライビング
ライトジャケット

RAY1750SG
ライトグレー M・L・O (2L)
11,550円 (本体価格11,000円)



劇的なまでに違う、クリアな視界の体験を



RALLIARTドライビングサングラス
スポーツ

フロントグラスや水面の反射、そして紫外線をカットして安全な視界を確保するタレックス社製偏光レンズをRALLIARTオリジナル軽量フレームと組み合わせました。※5月1日発売

RAY43015G
チタングレー
20,475円 (本体価格19,500円)

人気のあるWRCモデルのエアメッシュ仕様



通気性の高いエアメッシュ素材を採用した春夏用のキャップ。グラフィックはもちろん、ひさしのラインもスポーティさを演出します。

WRCメッシュキャップ

RAY21063WB
ブラック フリー
3,360円 (本体価格3,200円)

ビビッドなイエローにランサーが踊るTシャツ

「RALLIART」ロゴと疾走するLANCER EVOLUTIONを大胆にデザイン。背中にも「The Spirit of Competition」ロゴプリントを入れました。



Tシャツ

RAY0160SY
イエロー M・L
2,940円 (本体価格2,800円)

バックバック/手提げの便利な2WAYバック

丈夫なナイロンオックスフォード素材を採用し、バックパックとしてもハンドルを持って手提げとしても使用できる便利な2WAYバックの登場です。



バックバック

RAY41097SB
ブラック
7,140円 (本体価格6,800円)

メッシュの切り替えとカラーステッチがアクセント

クイックドライ素材が、汗をかいても快適な着心地をキープ。さりげなく主張するLANCER EVOLUTIONロゴプリント。



LANCER
EVOLUTION
ドライTシャツ

RAY0165EG
ライトグレー M・L・O (2L)
3,990円 (本体価格3,800円)

ちょっとした作業に気軽に使えるエプロン

ちょっと汚れそうな仕事にも気軽に使えるメカニックエプロン。クルマを傷つけないばかりか、静電気を逃がしやすいので作業も安心です。



MITSUBISHI
メカニックエプロン

RAY25003F
レッド フリー
3,990円 (本体価格3,800円)

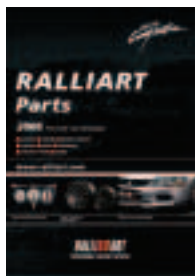
ウェア、グッズなど、豊富なラインナップを取り揃えた2006 SPRING/SUMMERコレクション3月発売!

通信販売
のご案内

- ①お電話 フリーダイヤル☎0120-321466(9:30~18:00/月~金曜日[土曜日、日曜日、祝日は休ませていただきます])携帯電話、PHSからの場合は☎03-5486-7356
- ②FAX フリーダイヤル☎0120-707655(24時間受付)
- ③インターネット <http://cybershop.ralliart.co.jp>

■お求めは上記通信販売またはラリーアートビット各店、全国の三菱自動車販売会社へ。 ■カタログご希望の方は巻末にある請求券にてお求めください。

※商品のカラーは、印刷の関係で実際と異なる場合があります。



「ラリーアートパーツ
2006フルラインナップ
カタログ」発行

ランサーエボリューションワゴン、ランサーエボリューションIX、アウトランダー、コルト/コルトプラスを中心に各車種用の設定パーツを1冊にまとめたカタログを発行します。ご希望の方は下記をご参照のうえカタログをご請求ください。



「ラリーアートコレクション
2006 Spring & Summer
カタログ」発行

このページで紹介した新しいウェア、グッズの掲載はもちろん、見ているだけでも楽しくなるラリーアートコレクションのメールオーダーカタログを発行します。ご希望の方は下記をご参照のうえカタログをご請求ください。



「三菱によるラリーカー工学」発売中

三菱自動車においてWRCやバリダカ参戦車両の開発を担当した著者(稲垣秋介氏)が、ランサーWRC、ランサーエボリューションGr.Nラリーカー、パジェロエボリューションを主な題材として、技術的な裏付けをもってラリーカーについて解説。三菱自動車工業監修。「三菱によるラリーカー工学 公道最速カテゴリの技術」山海堂刊 A5版・上製・208頁 定価2625円 (本体2500円)

■ラリーアートパーツ2006フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、5月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアートパーツカタログ係」

■ラリーアートCOLLECTION 2006 SPRING/SUMMER請求方法

カタログをご希望の方は、5月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

編集後記

今号から新たに編集長の任を仰せつかりました。これからはファンみなさまが楽しんで、また多くの方にモータースポーツの魅力が伝わるような誌面作りを目指します。今後ともよろしくお祈りします。(小湊)

ラリーアートジャーナル Vol.113

発行:2006年2月24日
編集:株式会社ラリーアート
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-5
ハーバーワンビル3F
TEL:03-5479-2357 FAX:03-5479-2362



有効期限:2006年5月31日
ラリーアートジャーナルVol.113
請求券
〒154-8691
世田谷郵便局私書箱6号
「ラリーアートコレクションカタログ係」